

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290600079		
法人名	株式会社日本ケアリンク		
事業所名	せらび美浜		
所在地	千葉県美浜区真砂4-2-8		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立支援に向けたケアと入居者様の明るい表情・困難な入居者への職員の粘り強いケア・職員の優しい対応と活気がある・清潔な施設</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は「素晴らしい人生を送ろう」という法人理念を共有し、「利用者が気持ち良い生活を送れるように」「利用者の気持ちを大事に」「利用者の立場に立って」を目標に利用者一人ひとりを尊重し、自立に向けた支援に取り組んでいる。居室担当職員が中心となって利用者の課題を把握し、支援につなげるようにしている。調理は各ユニットごとに行い、食事形態や食材に配慮し、自分の力で食べることができるよう支援している。ボランティアによるアクティビティが充実しており、月3~4回訪問がある。また、法人の音楽療法士が訪問して音楽を通して回想法を行い、利用者の活性化につなげている。利用者や家族、職員の意見もよく聞き、できる事から反映する姿勢が優れているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(素晴らしい人生を送ろう)に基づき全職員に周知し、その実現に向け日々努力している	法人の理念である「素晴らしい人生を送ろう」に基づき、入居者の気持ちに寄り添ったケアを目指して、日頃からユニット会議などで話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・外出等を、とうしてのみの交流であるが、日常的な交流ができるよう努めている	ホームは高層マンションの中にあり、マンションの自治会に加入している。近隣のカフェや買い物に出かけるなど、地域の中の一員になろうと努めている。	ホームとしても地域との交流の機会を増やしたいと考えており、運営推進会議や地域のボランティアなどを通して交流が広がることを期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の理解のもと、直接接する機会は少ないが運営推進会議などで、発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の継続し、参加者との意見交流を行いサービス向上に活かしている	家族や地域包括支援センター、民生委員、訪問歯科、協力病院のソーシャルワーカーの参加がありホームの状況や様子を伝え意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との連絡は少ないが、情報の発信に繋がるよう取り組んでいる	区の担当部署や保険福祉センターとは、何かあれば相談できる関係にあり、要望なども伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々身体拘束はしないとの研修も含め、その実践に取り組んでいる	ユニット会議では法人の「マナーブック」を活用し、研修にも参加して身体拘束についての理解を深めており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の開催の継続し、充分注意し、職員一丸となり防止に努めている。気になる言動等が見られる場合、随時面談行うなどし原因を見る努力をしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の開催をし、関係者との話し合いの上、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問にその都度対応し、かつ友好的な説明となるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・相談について、謙虚に傾聴し記録としても保存している。運営にも十分反映させている	家族や本人からの苦情、相談、要望については記録しており、対応できることから取り組んでいる。家族から出た「月間行事予定を早めに知らせてほしい」との意見にはすでに対応した。また、年1回法人が家族アンケートを実施し意見、要望の把握をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社経由の情報を、報告し意見が出るよう会議の開催にて反映させている	ユニット会議では運営面についても職員から意見が出ており、脱衣所の配置換えや調理の職員体制などについて意見交換をし、反映している。また、法人に要望していた職員休憩室も設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	これらに関してきちんと把握できる様にしているが、職場環境・条件の設備など個々に課題がある現状である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には常に力をいれている。法人内外で受ける機会も設けながら進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、研修及び勉強会に参加し、サービスの質を、高められるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント、モニタリングの実施し本人の安心するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族相談には、こと十分な配慮の上傾聴に努め友好な関係作りを行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談時にどう支援が必要であるかのリサーチし、アセスメントが不十分とならないようきをつけながら対応している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々、お互いの意思疎通(声掛け)を大切にしながら、送れる様に関係を、築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、来訪時が楽しみとなる様対応している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各々の会話の中本人の想いが、実現できるようレクリエーションを通し支援に努めている	家族や友人の面会がある利用者には居室で過ごしたり、ともに外出をしてもらっている。また、利用者が制作した絵手紙を出したり、来訪が少ない家族には電話をかけるなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、職員が中に入り関わりの時間を大切にしているが、中には居室のみ生活が多い方もいるため、外部・レクなどの参加ができるよう常に促しの工夫を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙などの利用をしているが、現状は連絡が無いことが多い。しかし中には連絡可能な方がいるので、相談及び傾聴に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の自由な生活を第一に考え、そのように努めている。誤解の無い様、個々に確認しながら暮らしの支援に努めている	これまでの暮らし方を把握し、自宅にいた時のように暮らせるよう配慮している。日常の会話、表情やレクリエーション時の様子などから意向の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年の暮らし方が失われ無い様サービス利用に努め、経過に関しては、サービス担当者会議等で職員の確認も合わせ行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録が、あいまいとならぬ様一人ひとりの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット職員全員で一人を見ることから、必要な関係者と話し合いをし、介護計画を作成している	家族来訪時には意向を確認し、ホーム長・ユニットリーダー・計画作成担当者・担当職員が職員全員の意見を書面や口頭で収集して話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識の上、情報の共有に努められるよう、教育し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、お互いの意思疎通(声掛け)を大切にしながら、送れる様に関係を、築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らし方に近づけるような、健康管理し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医及び本人の希望を考慮し、適切に医療を受けるよう支援している(月2回以上)	ホームの協力医が月1回訪問し、健康管理をしている。また、週1回訪問歯科の診療もある。入居前のかかりつけ医などへの受診は基本的には家族に対応を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医師及び稲毛病院訪問看護師による健康管理の目的に添い正しく適切な受診や看護を受けている(週1回の訪問時)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後家族と病院との連絡だけにならないよう病院との連絡がスムーズに行えるよう情報の共有ができるよう関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面でも取り交わしの上チームケアに取り組んでいる(医師と連絡相談後、家族への連絡し説明)	重度化・急変時に備え、入居時に「重度化対応指針に係る同意書」「AED使用に伴う意向確認(同意)書」を基に話し合い、方針を共有してターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練とは至らないが、研修及び緊急時対応について説明している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現実では、協力体制が伴っていない状況である	隣接するショートステイと合同で夜間想定避難訓練などを含む訓練を行っている。マンション全体の避難訓練にも年1回参加している。現在、一部のマンション居住者と協力関係を模索している状況である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けが失われ無い様に十分に配慮した対応に心掛けている	法人のマナーハンドブックを基に、ユニット会議などで研修を行っている。気になる場合はその都度注意して、利用者を尊重した言葉かけや対応をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定できるように、また表現できるように日常のケアに専念している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添う努力はしているが、時と場合において職員の促しによるべく活動への、参加の場合もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	きちんとした身だしなみには気をつけた支援をしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	不平や不満にも耳を傾け、楽しみとなるように入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンなので、職員と利用者がコミュニケーションを取りやすい。五目ずしを混ぜたり、餃子を作ってホットプレートで焼くなど利用者は食事準備や下膳などできることを分担して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他の部署の管理栄養士からの助言及び医療と連携し、個々に合った栄養提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師及び衛生士の助言もあり、口腔内の清潔保持に努め、嚥下困難に陥らないよう体操は食事前に必ず行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し、自立に向けその方に合う排泄の支援を行っているが、ADLの低下が著しい場合、その方の負担にならない様な、排泄方法を行っている(その場合必ず担当者会議の実施)	病院退院後の利用者について、排泄の自立に向けて支援した結果、リハビリパンツから布の下着に移行できたケースもある。しかし、一人ひとりの状況を見て支援しており、負担が少ないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう排泄チェック表及び水分チェックの活用を毎日のスケールとし、医療機関と相談の上下剤調整もしている。食事提供には、十分な配慮とし、日々予防に向けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に添った入浴方法を、取り入れているが、夜間入浴は行っていない	ゆず湯、しょうぶ湯など季節のお風呂を楽しんでもらっている。入浴をあまり好まない利用者にも声かけを工夫するなどして、入浴してもらい清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に安眠できる様休息の支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師及び薬剤師の指導のもと、服薬の支援を行っている。尚、定期的な往診にて各症状の変化にも対応しながら、服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のモニタリングを、行い喜びが見込めるように、気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が、希望を見込めるように、職員に伝え、意向に添えるよう外出の機会を支援している	近くにスーパーやドラッグストアなどがあり、毎日のように、散歩も兼ねて買い物に出かけている。この他、初詣・やお花見など季節ごとの外出もしている。家族対応で実家に帰ったり、墓参りに行く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の希望に添えるよう、家族と相談しながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な家族との連絡が出来る様、家族にも話し支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた住まいになるよう飾り付けにも配慮した空間づくりを目指している	居間とキッチンが続いており、ご飯を炊く匂いなどがして、生活感もある明るい共用空間である。利用者は自室や居間などで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の交流ができるよう、本人の希望を叶えた、居場所の工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と合意の上、安全に生活が送れるよう工夫している	居室はテレビや家具など好みのものを配置し、家族や友人との思い出の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示にて安全な環境整備を行っている		